実験育児学

畠山富而（財総合花巻病院）

Ⅰ	実験育児学－Human Biology の立場から
Ⅱ	育児に関する意識調査－母性行動について
Ⅲ	1歳6カ月児の言語習得と母子相互作用－遊び相手と時間との関連について

・実験育児学

仔ザル（カニクイザル）を実験動物として母子早期分離が，種・特異的固定行動（摂食行動，危険回避行動，遊びの適応行動，性行動，巣造り行動，母性養育行動など）および適応行動の発達にどのような影響をおよぼすかについて実験的研究を行い，脳DNAを測定し，比較生物学的にヒトの母子相互作用の意義の解明を計った。

現在までの研究結果から隔離仔ザルは多くの行動異常を示したが，その中には，乳幼児の問題行動，自閉様行動と相似の行動も多く観察されたが，最大のショックは，種保存に関与するサル社会適応性の発達の欠除と性反応，性行動の欠除であった。これらの行動の発達は生後3カ月間，生後6カ月間の母親の母性養育行動とも密接な関係を有していた。本能的行動の基本的発達，適応には生後3カ月間以上の母親との愛着が必要であり，その上でサル社会，とくに仲間による学習が加えられており，脳DNAの発達が生後3カ月にて critical period が終ることとの関連が推察された。さらに従来，本能的行動といわれていた，種，特異的固定行動型も単に生得的（遺伝子）シナリオに支配されている行動のみでなく，DNA中に準備され，さらに胎児期，生後の母子相互作用による同時触発，相互触発により作動し刻印される行動，母親，仲間を通じての模倣学習により作られる行動など，複雑な過程を経て総合的に形成されることが明らかとなった。しかも，それぞれの行動発達適応には，それぞれcriticl period が存在することも明らかとなった。

なお，サルを中心とする母子隔離に関する文献的考察を行いhuman biologyの立場から育児学の理論的確立を目ざして「実験育児学」メディサイエンス社，1981出版し，また，depression in primate を中心にmonkey psychiatry を文献的に追求し，母子分離に際しての生理的変化，睡眠，脈博，呼吸数，脳波，さらにホルモンの変動を“行動異常と動物モデル”小児医学，16(1)：134～168，1983として綜説し，ヒトの精神病態との関連性を指摘し，胎児，乳幼児期の人生早期の母子相互作用の重要性を指唆した。

・育児についての意識調査－母性養育行動について

変貌する社会の中で母性養育行動も変動していることが推測されるため，主として岩手県の地域社会を背景に歴代的動態も加えて市町村保健婦の全面的協力を得てアンケートにより直接面接法により26項目の調査を行った。調査地域は一部，秋田県を含む山間村，農村，都市近郊，都市，新興団地などで調査対象人員数は1,307名であった。なお，同一アンケートによるI都市近郊の歴代的調査は，20代，30代，40代，50代，各々100名について同様の方法により昭和57年度に行われた。

調査結果は，それぞれの質問項目に地域差が認められ，各地区とも，それぞれの地区背景，生活環境，とくに経済基盤の変化に伴い母性養育意識も変化しつつあることが明らかとなった。とくに都市近郊の企業誘地地区においては，従来とは異った望ましくない母性養育行動パターンが認められた。すなわち，豊かな穀倉地帯で生活に余裕があっても若妻達は誘地企業に就業し，育児は祖母が行うという実態となり，母と子の愛着行動，相互作用は極めて疎遠な状態となっている。また，これら地区の20代，30代，40代，50代の歴代的調査においても年代的に意識的母性養育行動は変動しており，若い年代は育児知識が豊富にもかかわらず自己中心的で努力に欠け育児を他人まかせですまそうとする傾向がうかがえた。

・1歳6ヵ月児の言語習得と母子相互作用－遊び相手と時間との関連について

都市近郊，山間の町の1歳6ヵ月児，154名について，健診と言語習得数を主養育者との遊びの時間数との関連で調査した。その結果，両地区とも，共働き，農業従事は直接的には言語習得には関連がなさそうである。言語習得数と遊び相手との関係では，母親(父)との遊びの時間数は言語習得に相関するように推察され，一人遊び，テレビ時間の多いものは言語習得が少ない傾向を示した。祖母(父)，兄弟姉妹との遊び時間との関係では地域差があり一定の傾向は認められなかった。言語習得数と一人遊びの際の内容では，人形，縫いぐるみ遊びが言語習得が多く，水遊び，自動車遊びは言語習得が少なかった。最も興味を引いたのは習癖と言語習得との関連であり，言語習得の少ないグループは習癖の頻度が高率であった。都市近郊と山間の町の一人平均言語習得数の比較では前者13.6対後者10.4語であった。

母子相互作用（広義）と言語習得の関連については，今後，言語習得の発達経過の解明の上に，遊び相手とその内容の検討が必要であり，重要な研究課題である。

検索用テキスト　OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

Ⅰ　実験育児学－Human Biology の立場から

Ⅱ　育児に関する意識調査－母性行動について

Ⅲ　1歳6ヵ月児の言語習得と母子相互作用－遊び相手と時間との関連について